

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年12月

主な出来事

●7日、北キブ州ベニ地区ムバウ-カマンゴ-エリンゲティを結ぶ通称「死の三角地帯」のセムリキに位置する MONUSCO 軍基地が、ADF(ウガンダ系反政府武装勢力)とみられる武装勢力に攻撃され、タンザニア人の PKO 兵士14名が死亡、44名が負傷した。

●9日、サス・ンゲソ大統領、カビラ大統領、ローレンソ大統領はコンゴ(共)のブラザビルで、中部アフリカの治安に関する3者協議「大湖地域国際会議(ICGLR)ミニ・サミット」を行った。

●11日、EU 外務理事会は、コンゴ(民)の野党及び市民社会に対する攻撃が中止されない限り、選挙への技術及び資金援助を行わない決定を行った。また同日、ベルギーの外務大臣はコミユケで、「ベルギーは選挙支援の第1段階である5百万ユーロの資金援助を留保することを決定した」と発表した。

●11日、EU は、2016年12月と今年5月に、コンゴ(民)政府高官16名に対して発令した経済制裁の1年間の延長を決定した。

●17日、ゴマからキンシャサに到着したラクロワ国連 PKO 局長は、シディク MONUSCO 代表らとともにカビラ大統領と会見した。「ラ」局長によると、同会見ではまず、7日に北キブ州ベニ地区のセムリキで発生した MONUSCO 軍への攻撃について触れ、カビラ大統領は、UN への哀悼の意を繰り返し表明した。また、「ラ」局長側はカビラ大統領に、同攻撃で死亡したコンゴ人兵士へのお悔やみを伝えた。

●19日、野党 UDPS 及び野党プラットフォーム「Rassemblement」が呼びかけたデモ行進は、キンシャサ市では、交通量が減少するなど、市民の活動が抑制された。同日、「フェ」UDPS 副幹事長が、「雨天に加え、調整が不足していたためにデモ行進は行われず、失敗であった。闘争には敗れるかもしれないが、戦いは続く」と語るビデオ・インタビューがツイッターに掲載された。なお、キンバタ・キンシャサ特別州知事は16日付書簡で、同デモ行進を「公式に認めない」との決定を UDPS 側に伝えていた。

●20日、MONUSCO は、予算上の理由により、イツリ州にある MONUSCO 軍の4基地を再編成すると発表した。閉鎖されるのはマンバサ、ゲティ、ポゴロ)及びブキリングにある4つの基地。

●22日、ウガンダ人民防衛軍は、コンゴ(民)東部に位置する ADF の基地への攻撃を開始した。

●24日、カビラ大統領は、改正選挙法案と2018年の予算法案を發布した。

●31日、カトリック非聖職者調整委員会(GLC)が日曜ミサ後の実施を呼びかけた平和的デモ行進で、少なくとも5名が死亡した。

1. 内政

(1)改正選挙法案の動向

・4日、改正選挙法案は国民議会を通過した。ただし、同案採択時に、野党側議員は採択をボイコットしていた。

・国民議会選挙において、当選が認められるために必要な最小の得票率(法定得票率)に関し、4日に国民議会で採択された法案は、「全国の有権者(約45百万人)の1%」としているが、15日午前に上院が採択した法案では、「選挙区内の有権者の1%」としている。

- ・16日、ミナク国民議会議長は、「採択された改正選挙法案は、発布のためカビラ大統領のもとに送られた」と宣言した。得票率に関する相違点について協議するため、15日午後には国民議会と上院からなる「調停委員会」が開催されたが、同委員会では合意に達しなかったため、憲法第135条に則り、国民議会による法案が採択されたもの。
- ・24日、カビラ大統領は、改正選挙法案と2018年の予算法案を発布した。

(2)カビラ大統領がラクロワ国連 PKO 局長と会見

- ・17日、ゴマからキンシャサに到着したラクロワ国連 PKO 局長は、シディク MONUSCO 代表 (SRSG) らとともにカビラ大統領と会見した。「ラ」局長によると、同会見ではまず、7日に北キブ州ベニ地区のセムリキ (Semuliki) で発生した MONUSCO 軍への攻撃について触れ、カビラ大統領は、UN への哀悼の意を繰り返し表明した。また、「ラ」局長側はカビラ大統領に、同攻撃で死亡したコンゴ人兵士へのお悔やみを伝えた。コンゴ (民) 東部の武装勢力対策について、「ラ」局長は、「集団で再建すべき協働の挑戦」であるとし、カビラ大統領は、「コンゴ (民) 東部の治安回復のために、MONUSCO との調整を行う」と述べた。同会見ではまた、2018年12月23日に予定されている選挙についても触れ、「ラ」局長は、「選挙プロセスはまずコンゴ (民) 政府の責任事項であり、UN としては支援を行うことを再確認した」と述べた。

(3)第6回州知事会議が北キブ州ゴマ市で開催

- ・18-19日、北キブ州ゴマ市で、第6回州知事会議が開催され、カビラ大統領、全国26州の州知事、主要閣僚及びナンガー独立国家選挙委員会 (CENI) 委員長が参加した。各州の状況に関し、治安状況については北キブ、タンガニーカ、イツリ、オー＝ウエレ及びマニエマの各州を除き、全体的に十分な状況が報告された。税収の動員及び支出構造については、税収の最大化が低レベルであることに言及され、対応策として、税務行政庁の能力強化が勧告された。

(4)3州での州知事選挙

- ・22日、不信任案によって罷免された3州 (中央カサイ、赤道、モンガラ) の州知事の後任を選出する選挙が行われた。当選者は次のとおり。
 - 中央カサイ州 ドウニ・カンバイ (与党 PPRD)
 - 赤道州 ボボ・ボロコ (大統領多数派 (MP))
 - モンガラ州 ルイ・ムボンガ (大統領多数派 (MP))

(5)カビラ大統領の所信表明

- ・31日、カビラ大統領は2017年を総括しつつ、2018年に向けた所信表明を発表し、ACP (政府系日刊紙) 等に掲載された。同大統領は、グラン・カサイ、タンガニーカ州等における治安回復状況、北キブ州で継続する ADF (民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力) による脅威等に言及し、経済面では、外貨準備高の増加、公務員給与の改善等に触れた。選挙については、独立国家選挙委員会 (CENI) が発表した日程に基づき実施されると述べた。

(6)野党の動向

ア 11月30日のデモ行進で一時拘束されたカブンド UDPS 幹事長をめぐる状況

- ・2日、11月30日に警察に拘束されたカブンド UDPS 幹事長が拷問を受けたと野党側が主張する件に関し、コンゴ (民) 国家警察 (PNC) 報道官は、「同幹事長は支持者らとともに尋問を受け、45分後に釈放された。拷問が行われたとの主張が真実であるとは思えない」と反論した。一方で、カバヤ UDPS 報道官は、警察がカブンド幹事長を拷問したと非難し、「幹事長が釈放されたのは30日の夜遅くであった。同幹事長は危険な状態であり、病院で治療を受けている」と語った。

イ 野党プラットフォーム「Rassemblement (ラッサンブルマン)」がデモ行進の実施を呼びかけ

- ・2日、野党プラットフォーム「Rassemblement」は、19日に新たなデモ行進の実施を呼びかけた。

フェリックス・チセケディ UDPS 副幹事長によると、12月19日は、故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首が「レッドカード運動」を開始した魔法の (magique) の日である。

・19日、野党 UDPS 及び「Rassemblement」が呼びかけたデモ行進は、キンシャサ市では、交通量が減少するなど、市民の活動が抑制された。市内には通常より多くの警察官がみられ、リメテ地区の「フェ」UDPS 副幹事長の自宅周辺には、警察のトラックが配置された。同日、同副幹事長が、「雨天に加え、調整が不足していたためにデモ行進は行われず、失敗であった。闘争には敗れるかもしれないが、戦いは続く」と語るビデオ・インタビューがツイッターに掲載された。なお、キンブタ・キンシャサ特別州知事は16日付書簡で、独立国家選挙委員会 (GENI) はすでに選挙日程を決定していることから、同デモ行進を「公式に認めない」との決定を UDPS 側に伝えていた。

2. 外交

(1) ガンゴ・コンゴ(共)外相がカビラ大統領を訪問

・7日、ガンゴ・コンゴ(共)外務・協力・在外コンゴ人大臣が、サス・ンゲソ大統領からの親書を携えて、カビラ大統領を訪問した。

(2) コンゴ(共)、コンゴ(民)及びアンゴラ首脳の3者会談

・9日、サス・ンゲソ大統領、カビラ大統領、ローレンソ大統領はブラザビルで、中部アフリカの治安に関する3者協議を行い、同日、「大湖地域国際会議 (ICGLR) ミニ・サミットのコミュニケ」を発表した。3首脳はコンゴ(民)について同コミュニケで、昨年12月31日の政治合意の実施における大きな進展となる選挙日程の発表を歓迎した。カビラ大統領は、サス・ンゲソ大統領とローレンソ大統領をコンゴ(民)での次回協議に招待し、両大統領はそれを受諾した。同協議の日程は後日決定される。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1) 北キブ州で MONUSCO 軍が攻撃される

・7日、北キブ州ベニ地区ムバウ(Mbau)-カマンゴ(Kamango)-エリンゲティ(Eringeti)を結ぶ通称「死の三角地帯」にあるセムリキ橋(Semuliki)の横に位置する MONUSCO 軍基地が、ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)とみられる武装勢力に攻撃され、タンザニア人の PKO 兵士14名が死亡、44名が負傷した。

(2) MONUSCO によるタンザニア PKO 兵士の追悼式典

・15日 MONUSCO は、7日に北キブ州ベニ地区で発生した、ADF と見られる武装勢力による MONUSCO 軍基地への攻撃による犠牲者の追悼式典を行った。キンシャサからの特別機には、コンゴ(民)政府からアタマ国防大臣、外交団からは日、米、EU、AU、オランダ、ロシア、モロッコの大使及びガーナ、エジプト等の次席クラスが同乗した。追悼式典には、右政府関係者及び外交団に加え、国連本部からタンザニアとコンゴ(民)を訪れているラクロワ国連 PKO 局長、シディク MONUSCO 代表(SRSG)をはじめとする MONUSCO 関係者及びパルク北キブ州知事等が参加し、イマーム(イスラム教の指導者)が祈りを捧げた。

(3) ウガンダ軍がコンゴ(民)領内で対 ADF 攻撃

・22日、ウガンダ人民防衛軍(UPDF)は、コンゴ(民)東部に位置する ADF の基地への攻撃を開始したと発表した。UPDF はコミュニケで、7日にタンザニア人 PKO 兵士14名を殺害したと推測されている ADF は、ウガンダに対する敵対行為を行うことが予測されており、予防措置のため、同日午後、同基地への攻撃を行ったと説明した。

4. その他

(1)米、カナダ及びスイスによる共同メッセージ

・7日、当地米、カナダ及びスイス大使館は、コンゴ(民)政府に対し、昨年12月31日の政治合意に従い、政治犯の釈放、集会、表現、往来及び報道の自由の遵守を監視するよう求める共同メッセージを発出した。

(2)MONUSCO への攻撃に関するコミュニケ

・8日、MONUSCO は、北キブ州ベニでPKO 兵士14名と、コンゴ(民)国軍(FARDC)兵士5名が死亡、PKO 兵士53名が負傷した件に関するコミュニケを発表、シディク SRSR は、同攻撃を強く非難した。

(3)EU 及びベルギーによる選挙支援の留保

・11日、EU 外務理事会は、コンゴ(民)の野党及び市民社会に対する攻撃が中止されない限り、選挙への技術及び資金援助を行わない決定を行った。
・同日、ベルギーの外務大臣はコミュニケで、「ベルギーは選挙支援の第1段階である5百万ユーロの資金援助を留保することを決定した」と説明した。この留保は、(政治的緊張緩和措置の実施等の)条件が満たされると解除される。ベルギーはまた同決定について、パートナー諸国にも同様の行動を奨励した。

(4)EU による経済制裁の1年延長

・11日、EU は、2016年12月と今年5月に、コンゴ(民)政府高官16名(ラマザニ・シャダリ内務・治安相、メンデ・メディア大臣兼政府報道官、カレフ ANR(国家情報局)長官等)に対して発令した経済制裁の1年間の延長を決定した。

(5)ラクロワ国連 PKO 局長がタンザニアとコンゴ(民)を訪問

・14日-18日、ラクロワ国連 PKO 局長とロアトレイ PKO 局軍事アドバイザーは、ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)によるとみられる攻撃の犠牲者に敬意を払うため、タンザニア及びコンゴ(民)を訪問した。15日には、北キブ州ゴマ市で行われる追悼式典に参加、16日には、キンシャサを訪問し、17日にはカビラ大統領に面会した。

(6)カトリック非聖職者調整委員会が31日のデモ行進を呼びかけ、少なくとも5名が死亡

・17日付で、カトリック非聖職者調整委員会(Comite Laic de Coordination: CLC)は、「31日(日)、『コンゴ(民)の未来のために』キンシャサ、各州及び海外でデモ行進をしよう」とのメッセージを出した。
・22日、野党 MLC も同デモ行進に賛同するコミュニケを発出した。その他、野党プラットフォーム「Rassemblement」をはじめとする野党、市民社会組織も同デモへの参加を呼びかけた。
・MONUSCO によると、31日に行われた平和的デモ行進による死者は少なくとも5名で、複数の負傷者及び120名以上の逮捕者が発生した。

(7)イツリ州の MONUSCO 軍基地の閉鎖

・20日、MONUSCO のフォンドン(Julius Fondong)地区責任者は、予算上の理由により、イツリ州にある MONUSCO 軍の4基地を再編成すると発表した。閉鎖されるのはマンバサ(Manbasa)、ゲティ(Geti)、ボゴロ(Bogoro)及びブキリンギ(Bukiringi)にある4つの基地で、それら基地に配置されている兵員は、コマンダ(Komanda)、アヴェバ(Aveba)及びブニャ(Bunia)の3つの基地に宿営される。

(8)米がゲルトラー氏を SDN リストに指定

・21日、米国財務省外国資産管理室(OFAC)は、深刻な人権侵害及び汚職にかかわった人物の資産を封鎖(block)する新たな大統領令を出し、イスラエルとコンゴ(民)の二重国籍をもつ大富豪

実業家で、カビラ大統領との関係も深いダン・ゲルトラー氏 (Dan Gertler) を特定国籍業者 (SDN) に指定した。

(9) 新 MONUSCO 国連事務総長特別代表 (SRSG) の指名

・27日、グテーレス国連事務総長は、任期終了となったシディク前 MONUSCO 国連事務総長特別代表 (SRSG) の後任に、アルジェリア国籍のレイラ・ゼルウギ女史 (Leila Zerrougui) を指名した。同女史は2008年から2012年に、MONUSCO 副代表を務めた。